丘友會報

鈴鹿高女・亀山高校同窓会

（亀山市本町1の521　℡ 05958-2-1518）

すばらしい先輩　すばらしい後輩　結ばれる絆　二万名

丘友会会長　森　淳之祐

年号も平成と改たまり、会員の皆様方におかれましては気分も新たに益々御清栄のことゝ存じます。日頃は亀山高校丘友会の発展にご尽力いたゞいて居ります事に対し有難く厚く御礼を申し上げます。特に昨年は五年に一度発行致して居ります会員名簿の発行に対しましては格別のご協力をいたゞきましたことに対し重ねて厚く御礼を申し上げます。

我が母校も創立以来六十八年を経過し本年は四五九名の卒業生を送り出し、会員数も二万名になろうとしています。毎年入会式に於いてのあいさつの中で申し上げて居りますことは、みなさんが社会に出られた時、そのまわりには必ず亀高の立派な先輩の方々がおられようとしています。

この機会に亀山高校の近況と今後の新しい時代への対応についてお知らせしたいと思います。

本校の特色でもある普通、商業、家政、保育の四学科からなる総合制高校の形態は今日も続いています。そして今後もその長所を生かした学校づくりに取り組んでいきたいと思っています。

現在各学科では習熟度別学習の導入、情報教育の充実、語学教育の改善などを共通に取り入れることにより新しい時代への対応を考えています。

又亀山市唯一の高校として「地域より信頼され地域へ貢献する学校づくり」を目標に地域の諸行事に積極的に参加したり、市民行事や中学生を対象にした行事、活動を企画することにより地域との交流を深めていきたいと思っています。

さらに将来の課題として普通科では生徒の能力、適性、進路に応じたコース制の実施や職業教育の取り入れ、商業、家政科では情報や流通関係の科目の強化、生徒の学習意欲や目的意識を高めるための方策、保母資格の取得年令の引き上げに伴う保育科の改変など多くの課題を抱かえています。これらの課題を解決しさらに発展するためにどうか先輩各位のご指導、ご協力をお願い申しあげます。

ごあいさつ

学校長　木根清史

丘友会の皆様には平素より母校のため何かとご支援、ご協力をいただきありがとうございます。

本校も昭和二十三年に亀山高等学校として創設されてより四十年余り、前身の鈴鹿高等女学校の創立より通算すれば七十年近くになろうとしています。その間に二万人を越える卒業生を地域社会に送りだしています。

最近各方面よりの教育に関する関心は大きく、臨教審の「高校教育の多様化、国際化、特色ある学校づくりや生涯学習の体系」答申、中教審への「後期中等教育の改革」諮問など高等学校教育も大きな変革にさらされようとしています。

「健康について」の意義深いお話をいたゞき出席者全員に大変喜んでいたゞきました。

本年も例年通り八月の第一日曜、八月六日に丘友会の総会を予定致して居ります。

本年の記念講演は亀高第三回卒業生の近藤巧氏（現亀山中部中学校校長）にお越しいたゞき「思いやりの心を育てる」と題しご講演をいたゞく事となって居ります。

お近くの方々は勿論の事、遠方にお住いの方々もお盆のお墓参りとを兼ねてのご計画の中で一度母校に足を向けていたゞき若きあの頃の思い出にふけっていたゞければ幸に存じます。八月六日の母校での再会を楽しみに致しますと共に皆々様の御健康とご多幸をお祈り申し上げます。

総会のお知らせ

第三十二回（平成元年度）丘友会総会を次のように開催します。ぜひご出席下さいますようお願い申し上げます。

なお、これをもって正式通知とし、各会員宛には案内状をさしあげませんのでご了承下さい。

一、日時　八月六日(日)　午前10時学年幹事会　午前10時30分　総会

一、場所　亀山高等学校第一棟大会議室

一、議題

1、六十三年度経過報告決算報告に関する件

2、平成元年度事業計画予算案に関する件

3、その他

一、記念講演　亀山市立中部中学校校長　近藤　巧先生（亀高三回卒）「思いやりの心を育てる」

すばらしき級友たち

丘友会書記　明石一夫（第二十二回卒業）

亀山高校を卒業し十九年経った今、ふり返って思えば高校三年間の思い出は多くの青春のまっただ中でありました。私自身野球部での三年間の練習は特に思い出されます。きびしい練習に明け暮れ、試合に勝った時の喜びは格別のものでした。又、当時のナインとはときどき顔を会わせさせていただきますが、みなさん元気に活躍されている様子で喜んでいる次第です。又、三年の後半は、念願の美術クラブで勉強させていただき、充実した日々を送らせていただきました。

さて、希望と不安の中で大学へ、あるいは社会へと飛びたたれた級友たちの中で今なお十数名の方とは年に数回、連絡をとり、会う機会をつくり出している仲間がいます。みなさんそれぞれ各方面で社会人として立派にやってみえ、子供さんも今は小学校、中学校の年令になってきています。人間、三十七、八才の年代は働きざかりであり希望と意欲に充ちた毎日を送っておられます。

そんな仕事に追われている中、現実をはなれて二十年前の級友にもどり、職場では、相談出来ない話が出、ついつい長くなり時間も忘れて夜遅くまで話がはずむこともあります。

現在、私にとって高校時代の友人とはこんなにすばらしいものかと思う昨今であります。

丘友会の発展というのは一人一人が高校三年間で得た体験をもとに級友たちのつながりが原点だと思います。みなさんが共に顔をあわせ話をされることが始まりであり丘友会の組織の拡大、充実につながっていくのではないでしょうか。時には、旧友へ電話でもされれば相手の方も喜ばれるのではないでしょうか。

最後になりましたが、平成元年度の総会が近づきました。普段亀山高校にはなかなか出向く機会が少ない中ですが、卒業生の皆さん年一回の総会には、気楽に（学校見学するつもりで）参加されますようよろしくお願い申し上げます。

クラブ後援会に御協力を

堀田　征

会員の皆様方には、ご健勝にてお過ごしのことと存じ上げます。

日頃はクラブ後援会に御理解をいただき深く感謝しております。

昨年度は、特別会員二十六名、一般会員二十九名に飛びたたれた級友たちの中で今なお十数名の方とは年に数回、連絡をとり、会う機会をつくり出している仲間がいます。みなさんそれぞれ各方面で社会人として立派にやってみえ、子供さんも今は小学校、中学校の年令になってきています。人間、三十七、八才の年代は働きざかりであり希望と年令になってきています。

長刀、スキー、卓球部、柔道部、硬式野球部、ウエイトリフティングクラブへの支援及び卒業生へのトロフィー代といたしまして三十数万円を活用させていただいております。

本年度も各クラブの活躍もめざましく、ウエイトリフティング、ハンドボール、バレーボール、陸上、剣道、柔道クラブ等全国高校総体に向け懸命の努力、練習をいたしており、是非皆様の暖かい御支援をお願いする次第でございます。

なお会費は次の通りです。

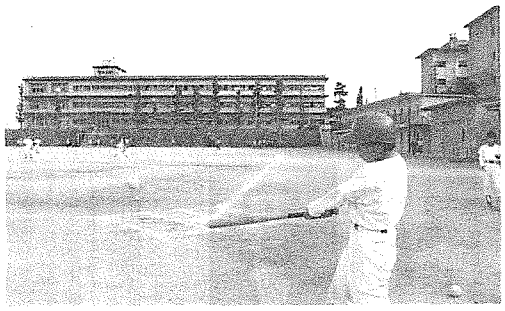
A会費　年額　三、〇〇〇円

B会費　年額　一、〇〇〇円

特別会費　年額　一〇、〇〇〇円

銀行振込が出来ますので詳しくは校内事務局までお問合わせ下さい。

又、恒例のチャリティーゴルフ大会を、平成元年九月二十一日（木）に予定しておりますので、是非お誘いあわせの上、多くの参加をお願い申し上げます。



放課後の部活動・背景は第4棟

2～3棟間中庭の校訓碑

教職員の異動

◎転入

定時制教頭　小河　承徳

教諭　田岡　亮子　神戸高校から

〃　長谷川恵子　桑名高校から

〃　林　茂宏　白子高校から

〃　柴原　廣　津工業高校から

〃　青木　幸子　四日市商業高校から

〃　岸田　誠司　飯野高校から

事務次長　笹山　静子　長島高校から

〃　吉村　恭子　北勢教育事務所から

◎新採用

教諭　山下　浩司

〃　肥田　育子

〃　小倉　留美

〃　穴太　智昭

講師　別所　恵子

主事　佐々木国広

◎転出

教諭　西村　栄二　神戸高校へ

〃　天野　久　居高校へ

〃　栄田　千恵　石薬師高校へ

〃　駒田　満　四日市四郷高校へ

〃　家城　文子　津東高校へ

〃　赤塚　信子　津商業高校へ

主事　山本　士郎　四日市四郷高校へ

◎退職

教諭　林　茂典

講師　佐藤　喜男

（引続き非常勤講師）

〃　高畑　京也

（引続き非常勤講師）

〃　竹森由美子

事務局より

◇昨年の会報にて協賛金のお願いを致しましたところ、九一名の会員並びに特別会員の皆様から八八五、〇〇〇円を応募いただきました。

心より厚く御礼申し上げ丘友会諸事業に活用させていただきます。

◇会員名簿残部僅少

昭和六三年十月発行の第七号丘友会名簿（B5版六〇〇頁）は三、八〇〇部印刷しましたが、残り僅かとなりましたが、御希望の方は左記へお申込み下さい。

郵便振替

「名古屋9－43351　三重県亀山高等学校丘友会事務局」

名簿一冊　五、〇〇〇円（送料込）

昭和63年度進路状況と今後の課題について

進路指導部より

進学関係

昭和六十三年度卒業生四百四十九名中、進学者百六十七名（三七、二%）、就職者二百四十九名（五五、五%）、家事その他三十三名（七、三%）でした。

四年制大学

四年制大学へは二十四名が進学し、その主な進学先は、愛知教育大、皇学館大、松阪大、四日市大、愛知学院大、中京大、名城大、佛教大等で、推薦入学者が二十名、一般入試では四名の合格者がありました。また、浪人生では愛知教育大、三重大、愛知大、名城大、日大等があげられます。

最近の進学状況では、四年制への進学は八割が推薦、二割が一般入試でという状況です。ここ数年来の受験人口の増加、来年からの国公立入試方法の改定等、色々な要素が加わり、私立大の難易度が上がって来ています。

短期大学

短大進学者は六十二名で、そのほとんどが県内の短大へ進学しています。また短大進学のほとんどは、推薦入試においてです。

県内の短大の推薦基準は年々上がり、高校での成績だけでなく、人物面、小テスト等で合否を決める傾向にあります。

各種専修学校等

医療系を除き、入学自体は比較的容易ではあります。しかし、いい加減な気持ちで進学したのでは卒業後の進路に困る事になります。乱立気味の専門学校の中で、十分な関心と意欲を持って本当に自分が学びたい分野に進み、必死になって取り組む姿勢が必要だと思います。

また、難化する一方の高看は、四年制 短大の一般入試と変わらぬ勉学姿勢もって、全国公私立高校保育科の先生と一緒に議論を重ね、現行通り受験できるよう文部省、厚生省とも話し合いを続けました。しかし、厚生省の強い意志により改正案が発表され、高等学校保育科については、平成七年三月末まで、現行通りと決定されました。

以上のように、国家試験が三年生で受験できなくなってしまうという点で、もう保育科がなくなるということになったのでしょう。

保育科に学ぶ生徒にとって、卒業時の保母資格取得は、大きな一つの目標でした。皆様もそれを目指して学習に励まれました。それができなくなるから、即科の存在意義がなくなるというのでは、あまりにも残念に思います。保育科三年間で基礎を作り、進学してさらに学習を積み重ね、幼児教育者をめざす道もあります。

☆課程別・校種別分類

課程／進路		男	女	計	普通科 男	普通科 女	商業科 男	商業科 女	家政科	保育科
大学（学部）	国公立		1	1		1				
	私立	13	10	23	12	9	1			1
短大	国公立		1	1				1		
	私立	1	59	60	1	34		7	5	13
専修学校		32	39	71	30	17	2	7	11	4
各種学校		2	9	11	2	5		2	2	
小計		48	119	167	45	66	3	17	18	18
就職者		69	180	249	55	57	14	50	58	15
就職進学者（再掲）			4	4		2		2		
進学希望者		12	3	15	12	3				
家事・自営・他		6	16	22	5	4	1	4	4	4
総計		135	314	449	17	128	18	69	80	37

保育科の現状

保育科ご卒業の先輩諸姉の皆様、お元気でお過ごしですか。ご活躍のご様子が、風の便りで届きます。在学生は、先輩を目標に日々学習に励んでいます。

ところが、最近、卒業生から「保育科が、なくなるのですか。」「ふたは閉が、募集停止になるのですか。」という、問い合わせが来るようになりました。このような話が出る根拠はどこにあるのでしょうか。おそらく、厚生省が、保母の国家試験の受験資格を、これまでの高卒程度から短大卒程度に引き上げ、試験科目に教育原理を加えるという保母試験制度の改正を発表したことにあると思われます。

保母試験取得には、ご承知のように保母養成施設を卒業するコースと保母試験に合格するコースの二通りがあります。養成施設は、高卒が入学の条件で、さらに二年間六十八単位を取得することになっており、事実上短大卒程度の資格に相当します。一方、現行の保母試験の受験資格は、高卒か児童福祉施設で三年以上の実務経験をへることになっており、二つのコースの年令、学習内容の格差が問題となったわけです。この新しい保母試験実施要領は、平成三年度より適用されることになりました。

私達もこの件については、手を拱いていたわけではなく、年間で基礎的な学力を積み重ねて、進学した保育科も少産少死型のさらに学習意欲を高め、定着した時代の流れ、社会情勢の変化により、その学習内容にも、今後検討を重ねなければならないと思われる点は多々あります。児童福祉から老人福祉、障害者福祉の方向はどうであろうか等、いろいろなご意見を戴きますが、保育科の将来の在り方につきましては、先輩諸姉のご意見を是非とも聞かせ願いたいと思います。

最後に、昨年十一月に亀山エコーに於いて家政科・保育科の作品展を催したことをご報告いたします。保育技術の時間等に製作した紙芝居・ペープサート・絵本・エプロンシアターの展示や、屋外ステージで、オペレッタパネルシアターを演じ、子供達と手遊びを楽しみました。保育科生は、実に生き生きと行動することができました。家政科の作品展示手作りの菓子と湯茶の接待、アップルパイ・クッキー・手芸品のバザーも非常に好評で、売り上げ金は、亀山市の福祉へ寄付をさせていただきました。皆様の後輩ご安心下さい。立派に取り組んでいます。

今年も、十一月に実施する計画ですので、その節には是非、亀山エコーに来ていただきご批評等していただければ幸に思います。

今後益々、地域の人々との交流を深め、お役に立てる事柄を考え、実行していきたいと計画しています。

一層のご支援・ご助力をお願い致します。

故山を去るにあたって

佐藤喜男

暖冬に桜の開花もいつになく早いこの三月故山の緑をあとに教壇を去ることゝなりました。まことに感慨無量なるものを実感しております。

昭和二十八年四月本校を振り出しに三十六年、途中山商松商で八年間過ごした以外は、すべて本校で先輩諸先生方の温かい御指導と御助力を得て、職責を全うすることが出来ましたことを紙上を借りて厚く御礼申上げたいと思います。

元号も「平成」とあらたまり、戦争と混乱の中に育春をすごした私達昭和人間にとってひとつの時代が終ろうとする二の時に私自身にとって一つのくぎりをつける定年退職を迎え、新たなる人生の出発点に立った気持ッ喫しており、期待感と充実感を満喫しております。

人生の放課後とも云える解放感の中にあってちょっぴり寂寞感も残りますが、自分自身の自由な人生を生きることが出きる楽しみを見出してゆきたいと念願しております。

まず、かねてより計画していた欧州旅行も先日無事に終え、収録したビデオを再生しながら、新たな感慨に耽けっております。

いまのところ、午前中は講師として本校と石薬師高校へ週十数時間の授業、午後はいろいろと趣味程度の雑学に時間を忘れています。

本校に近いせいで、風に流れてくるチャイムの音、先生方の放送などなつかしくもあり、気になることもありますが、いつまでも亀高を見守っていきたいと思います。どうか今後本校が少しずつでも昔日の姿をとりもどす方向に伸びていってもらいたいと念願しつゝ惜別の言葉にします。

一九九九・六・六

就職関係

昭和六十三年度は本田技研工業鈴鹿製作所だけで高卒男子八〇六名、高卒女子三一名も採用されたのをはじめとして、多くの企業から多数の求人をいただき、毎年採用していただいている企業に一名も就職しないようなことがあっておわびしなければならないこともありました。好調な内需を背景に各企業の業績が順調だったため、高校の就職希望者の売り手市場となったような感じがします。消費税の導入が企業間の競争関係に影響することもあり、就職浪人を出さないよう私たちも一層の努力を傾けたいと考えています。就職についても丘友会の皆様にいろいろ御世話になっています。お礼を申し上げたいと思います。

六十二年度には就職内定後変更されたり入社後すぐやめてしまうようなことなど多数のトラブルがありました。昨年度はかなりこのようなトラブルは減少いたしましたが保護者の皆様におかれましても御理解の上家庭における御指導御助言のほどよろしくお願いいたしたいと思います。

斎藤　滋

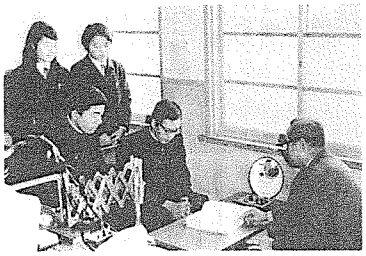
生川茂男先生のご逝去を悼む

教頭　加藤信大

亀山高校で昭和二十四年から四十六年三月ご退職になる迄の二十二年間ご勤務いたゞき数多くの人材を育んで下さった生川茂男先生が、本年寒さまだきびしい二月ご逝去されました。丘友会の皆様とともに先生のご冥福をお祈りいたしたいと存じます。先生は本校の前身校の一つである亀山実業学校の商業科教員として昭和十年の創立以来新制亀山高校発足迄ご勤務いたゞきましたので、本校六十数年の歴史の中で通算三十五年本校生の教育にご尽悴いたゞいたことになります。

前身校ご勤務の期間は、まことに激動の時代でした。やっと商業科の基礎が固まったかと思われた時、当時の国策として男子商業科の機械科への切替え、女子商業科の新設。授業の合間を縫っての勤労奉仕作業。農業科生徒と共同の荒蕪地の開墾―そこでの生産物の生徒の手による販売。戦争の終局期には学生の工場動員。こんな時代の中でも教育の本義を忘れぬ生徒の指導には随分とご苦労の多かったことと思います。学校の教育方針であった「社会に役立つ人材の養成」目指して、先生の指導は随分と厳格だったそうです。「こわかったなー」と、なつかしさをこめて語る卒業生は数多くいます。しかし同時に「なまけていると容赦なしに雷を落とされる。その声が恐ろしくて先生の授業は気を抜けなかった。おかげでソロバンの腕前はまだまだ若い者にもひけをとらないよ」との言葉が続きます。先生の目指されたものが立派に結実していると感じ入ります。

先生は亀山高校商業科の中にも、その伝統を注入して下さいました。いつの時間でも先生の授業を受ける生徒の静かだったこと。姿勢の正しかったこと。先生と十年あまり一緒に勤務させていたゞいた私にも、この印象は強烈に残っています。大声で生徒を叱声されるわけでもないのに、先生の風格から生徒は感じとったのでしょうか。私語一つ聞えない先生の授業。先生は一貫して珠算、簿記を担当されましたが、当時の本校生の、この教科の検定試験合格率の高かったこと。私達後輩教員の常に目指してとうてい到達し得ないものを先生は持ってみえました。



校務分掌は勤務期間中一貫して就職指導を担当していたゞきました。足しげく各方面に出向かれ数多くの生徒就職先を開拓されました。この先生のご努力が不景気の時にも未就職の状況で本校を卒業していく生徒零という結果に示されました。先生のご退職後私も就職指導を担当した時期がありましたが、学校へ求人に来ていたゞく企業の担当者の方で、「生川先生にお目に掛りたいのですが」といって来校された方の数の多かったこと。そして先生の余徳で無理な条件ものんでいたゞいて採用していたゞいた生徒も多々あり、退職後も先生は亀山高校の為に力を貸したものでしたと感謝しています。

その他定時制主事として創設間もなき頃の定時制教育の基礎確立に尽力されたこと、商業科実習施設として購買部を設置され本校生の福利厚生に力をいたされたこと。長らく商業科主任として本校のみならず本県の商業教育に尽悴された功績。ご退職後は新しく発足した県下商業科ＯＢ教員の親睦会である「商友会」の初代会長として現役とのいろいろな懇談をとっていたゞいたこと等紙面に余裕があったら、それぞれの分野での先生のご功績を記したいのですが。

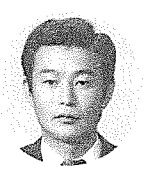
最後に先生が基礎を作っていたゞいた亀山高校商業科は情報化社会という新しい時代の中に新しい血の流入を計って毎年地域の期待にこたえる人材を送り出していることを先生に報告して文を閉じたいと思います。

特集

卒業生は今……

時代の転換期を迎えて

豊田忠良（第十七回卒）



突然に丘友会会報の寄稿を依頼されまして途方にくれながら自分が何年卒か指折り数え高校時代のことを思い出しました。そして卒業してから早や二十五年経ったことに改めて驚いております。

卒業後、日大経済学部に入学し、その後、教科書会社に就職しました。編集部に籍を置き、ここで自分の人生に大きな転換期を迎えたと思います。転換期といえば、我々は今、歴史の大きな転換期にいます。暦の上で二〇世紀も終りに近づき、間もなく二十一世紀が始まる今日の時代状況そのものが大きく転換し始めています。

教育界についても大きな転換期を迎えていると言えます。教育課程審議会の答申も国民として必要とされる基礎的、基本的内容を重視し、個性を活かす教育の充実を図ることが重要でこれは何人も異論をはさむ余地はないと思います。この中で個性的、個性重視の原則を教育界の最重要課題に取りあげておりますが、最近の学校は建物を見ればどれも同じで、一目見れば学校と分る程酷似しています。そして、生徒が自由に伸び伸びと、授業、部活動が出来る下地を作ることが丘友会のメンバーである我々の使命でもあると考えます。

この点は、登下校の生徒の様子を時折り遠間見て安心をしております。最後に丘友会の皆々様の御健勝を御祈り申し上げます。

雑感

入田珂津古（第十九回卒）

時の流れとともに、遠い昔の一ページとなってしまった私の高校時代。

丘友会から原稿依頼を受け、当時のことを想いおこしました。卒業アルバムをひもとくと色あせてきた写真のなかに懐しいあの頃の一つ一つが鮮やかによみがえってきます。歴史を物語るような古い木造校舎、お世話になった先生方や友の顔、なかでも、私にとっては、とても辛かった恐怖のマラソン大会のことなど想い出されて、しばし、タイムスリップしてしまいました。

その後、友と会ったり、母校を訪れる機会がないのが残念です。

卒業して二十年余、私は二人の子の親となり、夫の転勤で名古屋、静岡、東京と転居し、子どもたちも転校を重ねました。このような環境変化の激しい中で子育てをしてきましたが、教育面等を考え、横浜に落ち着きました。専業主婦として平凡に過す日々、暇をみつけては、編物、手芸、読書そして庭いじりなどたのしんでいます。

長女は高校生、長男は中学生になり、親離れ子離れを考える時期にきています。親としては、過保護にならず、放任しすぎず、一定の距離を保って付き合うことに努めていますが、ともすれば、短絡思考に走りがちな私にとっては至難の業です。最近読んだ本の中で、日本では、母と子の絆が強く、母親の『包含』が、子どもの自立心を奪うものとなりうること、父性、母性の特徴を生かし、バランスのとれた親子関係を構築すべきことなどが述べられていました。

子どものことをよく知っているのは、もちろん親ですが、成長するにしたがい、どこまで自分の子どもの実像を把握できているかと考えると、少々不安になることもあり、また、子どもの自立を妨げないで上手に付き合うことも、とても難しいことだと思います。時には、親という立場を離れ、子の立場で、物事を考えてみることも必要なことだと思いました。

毎日が試行錯誤の子育てですが、賢い母親となるよう努力してゆきたいと考えております。

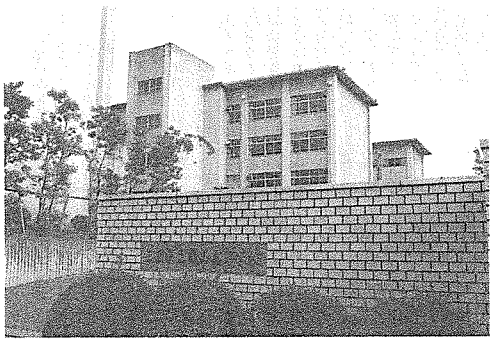
〝イメチェン元年〟と位置づけて……

伊勢公共職業安定所　前田耕一（第十八回卒）

突然の原稿依頼にとまどいながら、卒業以来二十数年間の亀山高校とのいくつかの関わりを振り返ってみた。ところが、脳裏に浮かぶ思い出の中に印象の良い思い出と云うものは何ひとつない。実際には、亀山高校にと云うよりも、その時々に私が接触を持った教職員の応対（私の依頼事に対するその時の担当者の応答）に対してであるが、いづれも通常では考えられないような非常識なもので、気の短い私でもあいた口のふさがらない程の事ばかりである。全ての教職員がそのような非常識なはずはないのだろうが、一人悪ければ全てが悪いと云う感じで、以来私の亀山高校の教職員に対する印象は一度も良い方向に向いたことがない。

また、最近の在校生の活躍ぶりはと探してみても、勉学あるいはスポーツ等のクラブ活動いずれも、ほとんど目立っているとすれば、登下校時のだらしない姿の数々ぐらいだが、これも指導する（実際に指導している処を見たことはないが）教職員が先述の状態だから当然のことであろうが、常識ある指導も受けられずに、亀山市民に白い目で見られている生徒が気のどくでならない。

とは云っても、母校に対するイメージは良いイメージでありたいと思う気持ちは私も人並に持っているつもりだ。しかし今、私の脳裏に刻み込まれているイメージは、簡単に消え去ることはないだろう。そこで、平成元年と云う区切りの年を亀山高校のイメージチェンジ元年と位置づけていただき、私の脳裏に新しい亀山高校のイメージが一日も早く刻み込まれるよう、常識ある先生方の一層の努力に期待したいものである。



第3代校門（昭和53年7月丘友会寄付により設置）

今、学校で、

亀山中学校教諭　楳谷英一（第二十回卒）

亀山高校を卒業して、二十二年が経過した。教師になって、十九年目である。私たちが過ごした中・高校生時代と比べて、今の生徒が大きく変わったとよく言われる。新聞紙上をにぎわす暴力事件、学校へ出たくても出られない登校拒否などの生徒指導上の種々の問題が公にされ、本になり、教育者と同じように、父母や一般の人達に関心を持たれ、話題になっている。

一般の人達の意見は、「親が悪い」「教師が悪い」「先生も大変だ」などいろいろであるが、大半の教師が悩み、苦しみ、怒りを持って何とかしたいと思っていることについて、みんなで話し合うことが少ないのが現状であろう。

今、私は中学校の生徒のいろいろな行動について、教師としての考えを述べ、御批判をいただきたいと思う。

目の悪い生徒がたくさんいる。三年生のある学級では、四十人中十七人が、視力〇・一以下である。この中で、メガネをかけている生徒は、七人だけである。なぜ十人の者は、メガネをかけないのだろうか。生徒は「（友達の）目が気になる。」とか「かっこが悪い。」とか答える。中学生時代は、社会的な認識が高まり人の目が気になる時代であり、恥かしさや劣等感が必要以上に強まる時期であることは、理解している。しかし、教師は、生徒が友達や父母など自分をとりまく人々の影響を受けるだけでなく、自分にとって大切だと思う問題については、恥ずかしさを、克服して自分をとりもどしてほしいと願っているのである。

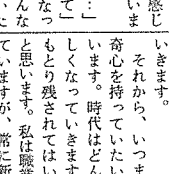
掃除をさぼる子が増えてきた。大半の生徒は、一生懸命掃除をしない。生徒にとって掃除の時間は、友達とのコミュニケーションの時間であるかのように、しゃべり続ける。

学校に、家庭に会話の不足が言われてから久しい。生徒は、こんなところで、会話の不足を補っているのである。家庭で、テレビとの接し方だと思うのです。子供は、親や友達からの愛情を感じている間は、いくら落ちこんでもそうバカなことはしないと思います。昔のお母さんも忙しく働いていました。私の母もお正月ぐらいしかゆっくりしていないような生活をしていました。それでも、私の寝ている間に、そっとノートを見てくれたりしていたのです。ノートの端に、時々メッセージが書いてあって、「よくがんばっているね」「調子に気をつけるように」って調子で。時には生活面でのアドバイスまで長々と書いてある時もありました。先生や友達にみられると恥ずかしいのですぐ消したりしていましたが、ある時先生の目にふれて今度はそれに対する評が書かれてあったりして、驚いた事もありました。そんなふれ合い方もあるのです。小学生の頃の事でしたが、筆跡やそのノートの表紙まで鮮明に覚えている程、印象深いものでした。

子育ても大切な母親の役目ですが、子供が巣立っていく時何も残っていない人生では情ないと思います。一生に一度の人生です。どう生きるかは、自分次第で決まります。

人生の折り返し点で

歯科衛生士　渡瀬恵子（第二十一回卒）



先日、ある人から「貴女も、ちょうど人生の折り返し地点だね。」と言われ、何故か三十代半ば頃から不思議に年令が気にならなくなり、節分の豆を数える時に、改めて自分の年を感じる程、無頓着になっていました。

私は、「年だから…」「今さらこの年になって」というのが嫌いで幾つになっても健康な限り、いろんなものにチャレンジしていたいなと思うのです。七十才を越えても赤倉までスキーに行く老夫婦や、六十才からピアノや英会話も覚えようとするお祖母さんに出会ったりすると、本当に嬉しくなってしまいます。

人間って怠け者だから、「もう年だから無理よ。」なんて思ってしまうと、どんどん楽な方に自分をもっていう一方的な伝達文化が定着したことは、親の子どもへの指導や躾を、忘慢にした。その結果、掃除など、自分の体を動かして、満足感を味わう活動に消極的な生徒ができて来たと考えるのは、行き過ぎだろうか。

また、受験の問題がある。社会の要請によって、親は、わが子が社会人としてりっぱになることを望んで中学校の学習を、受験の手段と位置付けざるをえない現状がある。この受験競争から来る挫折感は、生徒の行動をより、凶暴にしている。

私は、まわりの目、与えられたいろいろな物、競争をしいる社会、このきびしさの中で中学生は、まだ幼い心を広げ、人間らしく生きたいと願っていると考えている。

そして私は、教師として、命令できる立場になることを教えるのではなく、自分の生き様を自分で決めることができるような人間になることを指導して行きたいと思うのである。

子供にも、折にふれて自分の生き方をさりげなく話しています。今、一番子供に必要なのは話し相手なのだそうです。今の子供たちの多くは孤独で、対話のない家庭もどんどんふえていて、子供たちがしゃべらなくなっているというのです。

先日、精神科のお医者さんの講演を聞かせて頂きましたが、登校拒否、家庭内暴力、自殺、それらの原因の多くは、それなのだそうです。職業を持つ母親がふえ、子供たちとのふれ合う時間が少なくなっているという事ですが、それだけでしょうか。私は、それより子供との接し方だと思うのです。子供は、親や友達から愛情を感じている間は、いくら落ちこんでもそうバカなことはしないと思います。昔のお母さんも忙しく働いていました。私の母もお正月ぐらいしかゆっくりしていないような生活をしていました。それでも、私の寝ている間に、そっとノートを見てくれたりしていたのです。ノートの端に、時々メッセージが書いてあって、「よくがんばっているね」「調子に気をつけるように」って調子で。時には生活面でのアドバイスまで長々と書いてある時もありました。先生や友達にみられると恥ずかしいのですぐ消したりしていましたが、ある時先生の目にふれて今度はそれに対する評が書かれてあったりして、驚いた事もありました。そんなふれ合い方もあるのです。小学生の頃の事でしたが、筆跡やそのノートの表紙まで鮮明に覚えている程、印象深いものでした。

子育ても大切な母親の役目ですが、子供が巣立っていく時何も残っていない人生では情ないと思います。一生に一度の人生です。どう生きるかは、自分次第で決まります。

運動部の活動報告から

サッカー部

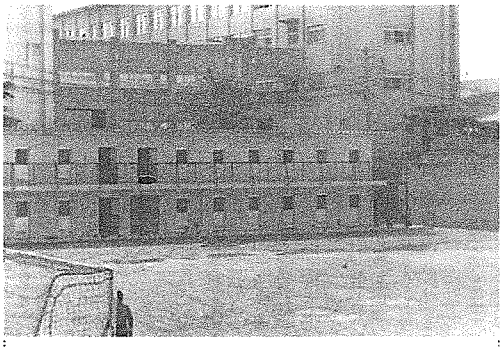
副主将　村上知春

この前の新人戦の時の話をしたいと思います。駒田先生も転勤され、三年生がさで何とも言えない気持ちぬけて初めての試合でした。それだからでしょう、サッカー部は皆気合が入っていて、一回戦〝南勢高校〟をそして試合の日がついに来打ち破りました。そして波に乗った亀高は二回戦久居戦にもちこみキーパーの活躍で勝ちました。そして三回戦四農ともやって勝ってしまいました。誰が予想していたでしょうか。亀高サッカー部はブロック優勝してしまいました。〝次の試合の日まであと三日〟その相手はなんと四日市中央工業でありったのです。僕らは皆部は〝打倒四中工〟という

絶対に勝てない絶望感と、あの四中工と戦えるうれしになりました。しかし僕らはあきらめず試合の日まで一生懸命に練習しました。ました。グランドは雨のため〝グチャグチャ〟だから四中工はおもうままにボールをKEEP出来ないだろうと亀高は考えていました。しかしさすがの四中工ですグランドの状態が悪かろうがみごとなボールさばきでありました。そして結果は9対0で完敗でした。しかし、四中工を一ケタでおさえたというのは最も重要なことだと思います。皆があきらめず守り続けたのだからです。こうして亀高サッカー部の新人戦は幕をとじました。そして亀高サッカーは、〝暗い〟〝軟弱〟と

大きな目標をもってこれからもがんばっていきたと思っています。

新部室完成



新しい部室がグランド西側、一・二棟東に完成しました。昭和四十年グランド北側に建てられて以来二十有余年、部活動の拠点として大いに利用されて来ました旧部室には、会員諸氏の思い出も多々あり、記憶されている方も多いかと拝察致しますが、近年老朽化がはなはだしくなりましたので、ここに新築移転ということになりました。

新部室は、部屋数二十五、男女シャワー室も設置され、今後の部活動の発展に大いに寄与することと期待されます。

自然をはぎ取る写真部

写真部　部長　伊藤守弘

「写真部」と聞くと皆さんは、〝暗い〟〝軟弱〟というイメージがあると思います。また、カメラはどこの家にもあり、思い出を作る道具の一つだと考えられているのではないでしょうか。

我が亀山高校写真部は、誰もが思っているような思い出づくりの部ではありません。自分の感性で自然をはぎ取ろうと、構図・露出・シャッタースピード等考えてシャッターを切ります。そして、学校の暗室でフィルムを現像・焼付けをします。すると白黒の写真に自然がはぎ取られているのです。つまり僕にとって印画紙に焼付けて現像液に入れた時とてもワクワクします。たった三秒でコントラストの濃い所から徐々に姿を現す時が写真をやっていて一番感動する所です。

我が写真部に入部する生徒のほとんどが初心者です。しかし次のような活動を通して自分の感性を一生懸命みがいています。

先ず、二週間に一度校外に出てそれぞれが写真を36枚程撮ってきます。そしてそのフィルムを現像し、批評会を行っています。昨年は高校野球の県予選で球児たちの健闘を熱写し、中日新聞に載りました。このことは、僕たち写真部にとって大きな励みとなりました。本来僕たちは、全国フォトコンテストに入賞をめざして、日々努力しています。今の所最大のイベントは学園祭です。学園祭では一年間の総決算としてパネル20枚・四ツ切写真約150枚を展示し、亀高写真部の名を上げました。又、その時に入場者の撮影会も行いました。写真には先ず引伸機がなくてはならないのですが、我が部には無くて借りています。これでは自由な活動ができないのが今一番の悩みです。でも不自由な中、男子6名、女子4名であらゆる行事には写真部として動き回っています。このように忙しい中、先にも書いたように自分の感性をみがくために5/3～5/5のゴールデンウィークに、部員全員で鈴鹿青少年センターで撮影合宿を行いました。今後、こういう活動を通してがんばりたいと思います。

テニスの心

テニス部

「テニス」というと女の子なら、ミニスカートにあこがれ、又男の子なら、マッケンローのようにかっこよくきめる。誰もが一度はやってみたいスポーツだと思います。

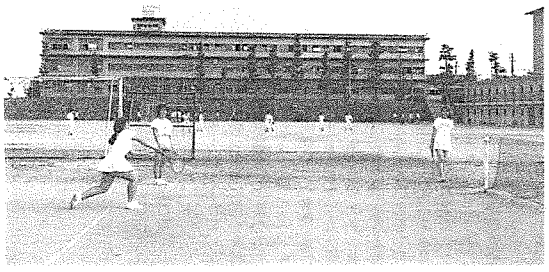
みなさんが予想している通り、テニスというのは本当に素晴らしいものです。

澄みきった青空に高く舞い上がる白球を、おもいっきり打つといやなことは忘れ、楽しいことは倍に増えそうな、そんな気さえしてきます。テニスの〝パコーン〟という音が心の底からすっきりできる栄養剤でした。その音と共に今まで三年間テニスをやってきました。いやなことも、うれしいことも、みんなと、一緒にボールにぶつけてきました。

夏の厳しい暑さも、また冬の凍るような寒さもテニスの素晴らしさ、みんなの協力によって忘れさせてくれました。このテニスで深めた友情や根性は、何に変えることもできない程心に刻みこまれています。また、試合などで勝ったり負けたり、みんなそれぞれ感じ方は違うと思うけど、今度こそは、という気持ちその気持ちはみんなの心を通じあっていると思います。例え負けてしまっても、涙がかれると共にまた別の新しい勇気がわいてきて、心の底から、興奮がわき出てくるそんな実感もやっぱりみんな同じものだと思います。でもそんな感動も何もかも、六月四日の試合で二度と味わえないように、なってしまいました。うそのように短い三年間でした。ボール拾いから始まってもう高校テニスも終わってしまいました。

私は、テニスが大好きなんだなってやっと今わかったような気がします。テニスをやって本当によかった、とつくづく思いました。これからの亀山高校テニス部が、もっともっと強くなるように後輩に期待したいと思います。

これからもっともっと、素晴らしい感動、新しい何かを見つけてほしいです。



県総体を終えて「あと一セット」

バレーボール部顧問　秋津修

本校に赴任して早や六年目を迎えましたが、今年ほど全国大会に近づいた年もなかったし、全国大会の見えない固い壁をこれほどまでに感じた年もなかったように思います。一月には全国選抜予選の決勝（東海T・Vで放映）で、宿敵松阪高と対戦しました。一年生三名が主力アタッカーという若いチームでありましたが、さほど緊張もみせず試合開始から調子に乗り第一セットを取り、第二セットも六対二とリードしましたが接戦の末敗れ、第三セットも終盤追い上げましたが結局二対一で敗れ、全国大会の出場はなりませんでした。

この「あと一セットの悔しさ」をバネにもう一つの全国大会出場のチャンスである県総体に向け延べ約十回の合宿を含む猛練習を積み重ね、六月五日の四チームによる決勝リーグに駒を進めました。一試合目に春季大会優勝校で実力No.1といわれる松阪商高と対戦し、すばらしい闘志と気迫のこもったプレーでフルセットの末勝ちましたが、次の松阪高との試合までわずか十五分という短い時間ということもあり、気力をふりしぼって戦ったにもかかわらず完敗し、結局優勝した松阪高と同じ二勝一敗でしたが、セット率の差で準優勝に終りました。悔んでも悔み切れない一セットでした。また一セットに泣いたのです。これで全国大会まで一セットに泣いたのが、通算四度目になりますが、自分にまた生徒に欠けている何かを見つけ、乗り越えていかなければ永遠に「あと一セット」に泣く事になるのではと思います。

赴任した当時は、近隣の生徒がほとんどでしたが、最近では「亀高でぜひバレーボールをしたい」という生徒がわずかではありますが増えてきて、上野市から毎朝五時に起きて通学して来る生徒や、また進学校に行かず入学試験をトップで入学して来るという生徒も増えてきました。しかし、喜ばしい事ばかりでなくクラブ活動に真剣に取り組み自分を鍛錬し強いチームを作るのにいろいろな障害も少なくありません。第一に学校全体のクラブ加入率が非常に低く、勉強にもクラブ活動にも意欲を示さない生徒、入っても何かあるとすぐにやめてしまう生徒が多く、私ばかりでなく他の先生方の一番の悩みになっています。また、バレー部に限ってかもしれませんが、亀山市内の部員が現在二十名中一名という事で、さみしい限りです。したがって、バス・JRが生徒の主な交通手段で通学にも時間がかかり、方向もまちまちで練習の一つの大きな障害になっています。それに推薦制度というクラブ活動を活性化できる方法も他校と較べ、本校の場合残念ながら全くといっていいほど活用されているとは思われません。

あげれば限りがない障害でありますが、何かをしようと思えば悩みのあるのは当然で、むしろそれをはねかえす事、強い精神力を養い、目標に向かってたゆまぬ努力をし達成することが大切であり、それが「あと一セット」を克服できる大きな力になるのではないかと信じ、これからも指導していきたいと思います。

下村幸七先生ご逝去

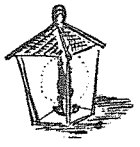
会報発行直前の六月十八日に先生の訃報に接しました。

先生は昭和二十九年から昭和五十年にご退職されるまで、二十年間本校商業科にご勤務いただき、多くの会員がお世話になりました。

とりあえずお知らせしまして皆様とともにご冥福をお祈りしたいと存じます。

編集後記

元号も平成となり、世の中も変化がきざしつつあるように思われます。亀山高校も、これから生徒の減少期に入り、大きく変貌して行くものと思われます。

今回の会報は、写真部の協力を得て、校内の風景を掲載しました。会員諸氏に貌の激しさに目を見はられる方、変様々でしょうが、職員も生徒も建物共々どんどん変化しています。次号では、母校周辺の変化の様子も紹介してみたいと思っています。

最後になりましたが、原稿の依頼に対して快く引き受けて下さった方々に紙面を借りてお礼を申し上げます。また、会報に掲載するのに適当な原稿、資料等ありましたら事務局までお送り下さい。